

# 学び合いの教育実践 チームビルディング研修開催報告

広島国際大学看護学部看護学科 飯野 矢住代

## はじめに

同法人摂南大学では、学生が仲間と主体的に課題に取り組む「チームビルディング」研修として導入し、学生の意欲・行動力を引き出し、教職員と学生の協働による様々な教育改革を実行し、大学の活性化に繋がっているという情報を得た。健康科学部医療福祉学科介護福祉学専攻（以下、本専攻）においても、専門職養成教育の一環として、1～3年生においては、実習前教育、4年生は卒業前準備教育として、研修プログラムを検討し実施したいと考えた。実際、コロナ禍が影響し4年生には実施できなかったが、1～3年生に実習後教育として実施した内容を以下に報告する。

## 1. 研修目的

チームビルディング研修では、本専攻の専門職養成教育として「自己理解を深め、自分の持ち味を知る」などが必要だと考え、それが期待されるチームビルディング研修を実施することにした。①自己理解を深める（じぶんの持ち味を知る）、②他者が行う自己理解に協力する（他人の持ち味を知る）、③チームビルディング研修の体験を前提とし、大学生活、学修、自分の人生がスムーズに移行するきっかけとする。ひとり一人の持ち味、リーダーシップに気づき、それらを発揮するヒントを得る機会とする。

実習後、学年ごとにふりかえりをし、今回の研修を最後のまとめの時間とする。チームビルディングの体験を通して、ひとり一人がじぶんの持ち味を整理したり、気づいたりすることで、新年度からの授業や実習に活かすヒントとする。

## 2. 研修プログラム

表1のようなプログラムで実施した。

### 1) 演習1 あなたの学習スタイルとグルーピング

チェックリストを記入し、自身の学習スタイルの特徴を見つめなおした。学修スタイルはグラフ化され、自己理解の一步になるものであった。そのグラフ化されたものを持って会場を回り、5～6人のグループメンバーをつくった（写真1）。

## 2) 演習2 記者会見

自己紹介に代わりに、自分で名札をつくり、メンバー間の理解を深めるために、メンバー個々の記者会見を行った。インタビュー形式をとることで、人をより深く理解していくための質問を行っていった。本人が一方向的に話す自己紹介とは異なり、質問に答えるうちに自分によせられる「関心」を実感でき、強く存在が認められる体験をした。また、ふりかえりでは、「良かった」「悪かった」を評価するのではなく、何を感じどのようなことを考えたのかなど、グループ活動の「ありのままの姿」をつぶさに点検し、感じたことや考えたことをメモし、それらをグループでわかちあった。

## 3) 演習3 私を活かすコミュニケーション

コミュニケーションに関する知識を整理する目的で、まず設問について個人で回答し、それらをグループで討議によりグループの考えとして妥当なものを決めていく。グループで妥当なものが決められた後、妥当解を示し、それを妥当とする考え方や理論的背景を検討する。同時に「たずねる」「きく」「こたえる」というコミュニケーションスキルについても検討を重ねる。検討を重ねることで自身のコミュニケーションの特徴を知ることができる。学生たちは、学外実習の直後だったため、実習のなかで経験したコミュニケーションをもとに議論が白熱し、制限時間を超えて議論を続けるグループもみられた。

## 4) 演習4 課題解決「朝刊に間に合わせろ」

メンバー個々に断片的な情報が記載されているカードが配布され、そのカードを見せ合うことは禁止され、口頭でのやりとりと簡単なキーワード、絵、記号のメモで、課題解決を行った。課題解決には、正確な情報の提供や把握、話し合いによる意見の調整などが必要であった。メンバー内は様々な葛藤、勝手な解釈などを体験した。そのような解釈がグループの動きにどのような影響を与えたか、日頃を照らし合わせながら、グループ内に起きる様々は動きに気づき、自分の動き（行動・感情）に気づくことができたようだった。

## 5) 演習5 イメージ交換

メンバーで1日をふりかえり、言葉のプレゼントを交わす。相手に読み上げ、メッセージを書いたカードを手渡した。気恥ずかしさもあったようだが、それぞれが真摯な態度で、相手のことを思いやりながら伝えたっていた。他者から見た自分の持ち味を、率直に聴く機会はありません。各自の自己理解に、メンバーが協力していた（写真2）。

## 6) 演習6 得たこと、学んだこと

1日間の研修をふりかえり、明日からのスローガンを考えた。

## 3. 研修対象者

健康科学部医療福祉学科介護福祉学専攻学生42名（1～3年生）、介護福祉学専攻教員5名。

## 4. 学生の反応

研修会修了時のアンケートで満足度についてたずねたところ、「とても満足した」29名（72.5%）、「満足した」11名（27.5%）であった。満足した理由の複数回答は「学年を超えて交流できた」「チームの重要性や他者と協力することの大切さを感じた」「自分の持ち味や他者から見た自分を知ることができた」「自分と違う意見や新しい視点を得ることができた」であった。

本日の研修で学んだことや気づいたことについてたずねると複数記載されていた言葉として「言葉の背後にあるものについて学んだ」「聴くことの重要性」「他者から見た自分」「会話することや討論することの楽しさ」「情報共有や話を聴き合うことの大切さ」であった。

本日の研修は、大学生活や将来に向けて「利用者との関わり」「介護福祉チームや多職種連携」において活かしていけるものだという意見が多数みられた。

## 5. おわりに

この研修会は、先にも示したとおり本研修会は、実習後教育として実施したものである。実習直後であったにも関わらず、学生たちは楽しそうに活動に取り組んでいた。学生から「他学年と関わり、いろいろな意見や自分の意見を述べて議論が白熱し学ぶことが多かった。また、議論を通して問題解決していくことが楽しかった」や「自分からみた自分と、他者から見た自分の差に驚くこともあったが、他者からみた自分の課題もいいところも見つけることができた」などの意見を聴き、本研修の目的「チームビルディングの体験を通して、ひとり一人がじぶんの持ち味を整理したり、気づいたりすることで、新年度からの授業や実習に活かすヒントとする」は達成できたのではないかと考える。今後も今回の機会を得た繋がりを大切にして、学生同士で学び合っていってほしい。また、教員も意識して学生の学び合いを時には「しかけ」時には「見守って」いてほしい。

付記

この研修会の担当講師は、株式会社ラーニングバリューの矢野晶子氏である。

研修会は、2022年3月4日（金）9:00～18:00に実施した。

研修会開催にあたっては、2022年度健康科学部医療福祉学科介護福祉学専攻教員五名で検討を重ね実施した。

引用・参考文献

[http://www.hirokoku-u.ac.jp/health\\_science/news\\_mw/20220309/](http://www.hirokoku-u.ac.jp/health_science/news_mw/20220309/)

<https://www.l-value.jp/company/>（最終文献検索日：2022年9月29日）。

表1	
「自己の探求I」	
●プログラム	
内容	
9:00	オリエンテーション
	①演習. 1 あなたの学習スタイル (解説)
	②演習. 2 名札作成 記者会見 ふりかえり
	昼食
	③演習. 3 私を活かすコミュニケーション (解説)
	④演習. 4 課題を解決していくには ふりかえり
	⑤演習. 5 イメージ交換
	⑥演習. 6 得たこと、学んだこと
18:00	終了



写真1：演習1

「あなたの学修スタイルとグルーピングの様子」



写真2：演習5

「イメージ交換の様子」